

歌が生まれる

校歌制作レポート 第3回



事務局注：英明高校の校歌2番の歌詞が間違っている件については第7回で言及しています。

イラスト：山崎奈緒

甲子園の高校野球は、色々な校歌がまとめて聴ける珍しい機会なので、今夏の大会では試合はそっちのけで校歌ばかりを気にしてチラ見しています。

で、昨日すごいのを聴いてしまいました。香川県の英明高校の校歌。

すぐれた人になりたい／英知と心／学ぶは英明

元気な人になりたい／太陽の心／学ぶは英明

試聴



因みに、旋律の冒頭部分は前回お話しした「ソドレミ」型です。

校歌の歌詞といえば、①所在地の環境（地理的特徴・自然・歴史）が挙げられ、②校舎が描かれ ③校是・校訓的内容が辞書が要りそうな難しい熟語で語られ ④校名が誇らしげに…というのが定番（順不同・文語調少なからず）ですが、この校歌は「こうなりたいからコレをここで学ぶのだ」と、それだけを平易な口語で歌う。何とシンプルで潔い歌詞であることか！しかも語のストライクゾーンが広いので、「すぐれた」とか「元気な」とはどういうことか？「英知」とは？「太陽の心」とは？は、歌う人の想像力と定義に委ねられ、だから必然的に、それぞれの「私」像が問われることになる。

うん、これはいいな。ヤラレタ、という感じがします。

さて、上田短大はどうする？ そろそろ歌詞構成にとりかからねば…。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 8月10日 レポート

なんちゃってダミーを作ってみる

ためしに、公募に寄せられた言葉（下記赤文字と青文字）を前ページで挙げた①～④に当て嵌めて、紋切り型の七五調にしてみると...

- ① 木漏れ日揺れる裏山に 学海の風そよぐとき
- ② 赤き煉瓦の学舎（まなびや）に 集いし友と語る夢
- ③ 敬愛・勤勉・聡明を 若き歩みの旨として
- ④ 共に開かん知の扉 上田短大我が母校

はい、定番要素てんこ盛り、こてこてステレオタイプのなんちゃってダミーが一丁上がり。つまりこれは「校歌というもの」のパスティシュ、いやパロディか？ こんなのを作ってどんどんツッコミを入れていくと、本当はどうしたいのか？ がきっと見えてくる。選ぶべき「そうである」を見つけるために、無限にある「そうではない」を先に明らかにしようという作戦。定番要素てんこ盛りなのは、もちろん意図的ですが、寄せられた言葉のほとんどは実際に4つの定番要素に集約されるので、必然的な結果でもあります。

さてこの状態から①～④の順にツッコミを入れていきましょう。

①（環境など）：山・裏山・風・空・緑・花・木漏れ日・桜など、学校周辺の自然環境に関わる言葉が多く寄せられており、実際それらがとても美しく独特であることは私も実感しているので、これを置くことは良いと思います。ただし、「裏山」と「学海」に異議あり。また、環境として他に考えるべきものはないのか？ との疑問もあり。

②（校舎）：「赤煉瓦」を入れることは避けたい。また、そもそも校舎を歌う必要があるのか疑問。

③（校是・校訓など）：敬愛・勤勉・聡明は、望ましい人の姿としてその意味するところは文句のつけようがない。ただし熟語なので、そのまま歌詞にすると堅苦しくなりそう。①で学海を「？」としたのも実は同じ理由です。また「かくあれかし」的に上から垂れるような印象になるのは避けたい。

④（校名）：なくても良いと思っています。ただし、U・E・D・A を音名に置き換えて旋律に織り込むアイディア（第1回参照）は生かしてみたい。

・・・と、ここまでで今回は紙幅が尽きました。「青文字は何だよ？」の声が聞こえてきそうです。それを含めて次回に持ち越し。やっと思考が回り始めたので、すぐに続報します。ではまた。